

## 検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。  
この度、「臨床・病理胃癌取り扱い規約(案)」において胃癌の病態解明や診断、治療の著しい進歩に対応するために大幅な改定が行われました。  
これに伴い、病理診断 (Group 分類) の記載方法を下記の通り変更いたしますので、何卒ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

\*\*\*\*\* 記 \*\*\*\*\*

### 臨床・病理胃癌取り扱い規約(案)の主な改訂点

壁深達度：T 分類を改訂した。これにより T<sub>0</sub> の新設、T<sub>1a</sub> : M  
T<sub>1b</sub> : SM(T<sub>1b1</sub>:SM1, T<sub>1b2</sub>:SM2), T<sub>2</sub>:MP, T<sub>3</sub>:SS, T<sub>4a</sub>:SE, T<sub>4b</sub>:SI と規定された。  
浸潤増殖様式を INF , , INF a, b, c とした。  
手術標本の切除断端：PM, DM, VM の (+)/(-) 例：PM(+) PM1。LM HM。

### 胃生検組織診断分類(Group 分類)

旧 Group 分類(第 13 版、1999)	新 Group 分類(第 14 版、2010)
	X : 生検組織診断ができない不適材料
: 正常組織、および異型を示さない 良性(非腫瘍性)病変	→ 1 : 正常組織および非腫瘍性病変
: 異型を示すが、良性(非腫瘍性)と 判定される病変	→ 2 : 腫瘍性(腺腫または癌)か非腫瘍性が 判断の困難な腫瘍
: 良性(非腫瘍性)と悪性の境界域の病変	→ 3 : 腺腫
: 癌が強く疑われる病変	→ 4 : 腫瘍と判定される病変のうち、癌が 疑われる病変
: 癌	→ 5 : 癌

### 病理診断の記載方法

病理組織診断の記載に続き、Group 分類が記載されます。  
(例：tubular adenocarcinoma,tub1,Group5)

### 変更期日

早急に新しい胃癌取り扱い規約に従って診断いたしますが、診断される先生によって変更時期が前後いたしますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

以上